

【幼保小連携通信】

保育課・学校教育課
幼保小連携担当

夢に向かって挑戦する子ども

令和6年度

6月7日 No.6



こんな取組をしていました！

朝、清新小学校1年生の教室をのぞいてみると、ちょうど読み聞かせタイム。子どもたちも、絵本を読んでいる先生方も、みんな笑顔。でも、読み聞かせをしているのは、担任の先生ではないようです…。

そうです！読み聞かせをしていたのは、相模原保育園の先生方です。



読み聞かせが終わると、何人も挙手し、感想を伝えていました。

笑ったり、シーンとなったり、声をあげたり…絵本の内容によって、表情も反応も雰囲気も変わります。

子どもたちの様子を観に、授業参観や運動会にも行っているそうです。

清新小と相模原保育園の交流をと、昨年度、園からの提案で始まったとのこと。「お互いに負担にならないように」と交流内容を相談し、この時期に、2クラスずつ日を分けて行っているそうです。

聞きなれた声での読み聞かせ、園の先生たちはずっとみんなのを見ていますよ！応援しているよ！というメッセージ…最後には、「運動会みんなかっこよかったよ！」と褒められ、子どもたちもとても嬉しそうでした。

まずは、幼保小がつながること。そして、“幼保小連携”から“幼保小協働”へと、進んでいきたいですね。



たくさんのご参加
ありがとうございました！



支援保育・教育コーディネーター研修を行いました☆

5月30日（木）に、幼・保・小・中・義務教育学校合同による支援保育・教育コーディネーター研修（オンライン）を行いました。東海大学 関戸 英紀 教授から、「支援を必要とする子ども理解」というテーマでご講義いただき、その後、子どもたちの様子や取組などについて、中学校区で協議しました。

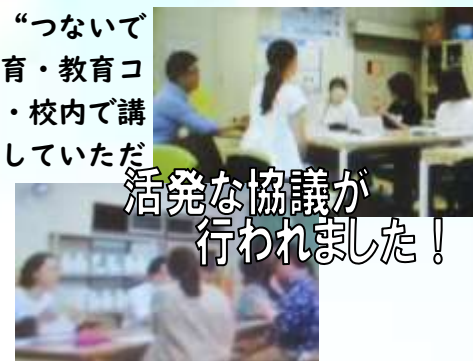


関戸教授から、問題行動に対する理解・支援の方法として、機能的アセスメント・積極的行動支援をご説明いただきました。事実の記録・分析、授業のユニバーサルデザイン化、個別支援シートの引き継ぎ等、できるところから支援をしていく

こと、また、情報交換が大切であり、園児や先生方が小・中学校を訪問したり、参観したりすることもよいとのことでした。

切れ目のない支援を意識し、“つないでいく”ことが大切です。支援保育・教育コーディネーターを中心に、園内・校内で講義内容を共有し、支援の参考にさせていただけたらと思います。

会場校の先生方、ご準備ありがとうございました。次回は1月17日（金）、関戸教授より、「幼・保・小・中の連携による支援」をテーマに、ご講義いただく予定です。



活発な協議が行われました！